

## 平成26年度 第2回 奈良県食育推進会議 議事要旨

日時：平成27年3月17日（火）14時～16時

場所：奈良商工会議所 地階 AB会議室

出席者：（委員）尾川欣司、柿本順子、河合伸晃、北野宥範、小瀬賢次、田中賀洋子、田中博、  
辻本昌代、野村由佳、藤岡庄司、山下雅央（五十音順）

概要 なら健康長寿基本計画、第2期奈良県食育推進計画に基づく、食育の推進状況についての  
各議題等にそって事務局から報告後意見交換が行われた。

<議題1> 平成26年度食育推進関連事業の主な取り組み実績について（資料1）

### I. 食育推進事業（別紙1～8）

- （1）食育推進体制整備事業
- （2）食育推進普及啓発事業
- （3）食育推進環境整備事業

### II. 健康寿命を延長する取組推進モデル事業（減塩対策分野）（別紙9～10）

### III. スーパー食育スクール事業（別紙11）（保健体育課）

以下、主な質問・意見

- ・スーパー食育スクール事業が大和郡山市の治道小学校で実施されたが、選定には何か基準があるのか。  
また、この取組をすべての学校に広めていくために何か方策を考えているか？  
→スーパー食育スクール事業を実施するにあたり、市町村へ事業の募集をかけた結果、大和郡山市が希望され、文科省に申請、採択されて実施することになった。  
事業の取組紹介と成果について2回報告会を実施。また、報告書にまとめて県内の公立幼稚園・小学校・中学校・高校、国立大学附属小学校、県内学校法人に、この方策を進めるひとつの手だてとしてもらうために配布。
- ・スーパー食育スクールが、通常の授業の中に組み込まれ学べるような環境づくりをしてもらいたい。
- ・減塩ツールが目を引くことで減塩に注目が集まることを期待したい。子ども大人も楽しいキャラクターで、どこででもできる紙芝居、歌に期待が持てる。
- ・減塩ツールをどのような形で使い、今後拡散させていくために、どのような形で広めるか、また貸し出しもできるのか。  
→誰でも紙芝居が実施できるように、裏側のセリフと科学的根拠やデータの引用について説明者側にわかりやすいように記載している。また歌は、耳について口ずさんでしまうような歌で、歌詞の中にもちょっとした減塩のヒントを盛り込むような形で作成途中である。大人も子どもも楽しめるように来年度は市町村や子育て支援団体、食生活改善推進員等に活用して頂ける形で普及していく。  
県内の大学生との共同事業も予定しており、若者の視点での普及啓発も考えている。
- ・減塩と高血圧は大切。高血圧の行き先がどうなるかが重要。1番多いのは慢性腎臓病（CKD）でCKDが急増している。減塩ツールには、減塩すればCKDが改善あるいは進行が遅くなるという視点が抜けている。何故高血圧がいけないのか。高血圧の行き先がCKD、その視点を入れながら、作成

してほしい。

→紙芝居には、高血圧は自覚症状がなく、高血圧を放置すると、知らず知らずのうちに心臓病・脳卒中・腎臓病につながっていくことを盛り込んでいる。

- ・減塩を成功させる要は冬の室温。寒いので食事摂取量が多くなり、結果として塩分も多く摂ることになる。
- ・山間の人は濃い味付けではなく、たくさん食べるからというデータがでていますが、どのような考えからなのか。

→山間の方は食物の流通が悪いので、塩分摂取が高いに違いないという予測で調査した。女性が山間の方が塩分摂取量が高いということや、食べる量も多いことがわかったという資料である。

- ・平成27年度は本筋としては減塩だが、カリウムや野菜摂取の推進にも取り組んだ方が効果が上がる。
- ・移動スーパーで、実際に売れるのは肉類であり、野菜は家にあるので売れない。いつも同じ野菜を使って同じようなメニューを作っておりレパートリーが少ない。メニュー提案が必要。

## ＜議題2＞ 平成27年度食育推進関連事業の主な取り組み予定について（資料2）

### I. 食育推進事業

- （1）食育推進体制整備事業
- （2）食育推進普及啓発事業
- （3）健康なら協力店事業
- （4）食育作文コンテスト事業
- （5）なら減塩健康食プロジェクト事業
- （6）食生活改善推進員団体リーダーブロック研修会開催事業

### II. 健康寿命を延長する取組推進モデル事業（減塩対策分野）（別紙10）

### III. 大学生が創る奈良の食育未来事業について（別紙12～13）

### IV. スーパー食育スクール事業（保健体育課）

以下、主な質問・意見

- ・リーフレットの枚数制限もあるかと思うが、各市町村のPTAを通して直接若い世代の子育て世代に届けることができる。
- ・健康なら協力店事業が伸び悩んでいる。今後この事業は、どのような展開になっていくのか。  
→保健所が認定している一方で店が閉鎖になるなど、総戸数としてなかなか進まない。国庫補助事業で行っているが、国の内示が秋頃と遅く、事業期間が短いことも課題になっている。  
県民に周知できるツールが少なく、ホームページで紹介しているだけで、この制度を知られていないことも課題。平成27年度に検討会を開催し事業内容を見直す予定。
- ・なら減塩健康食プロジェクト事業で、親子対象の減塩イベント実施とあるが、集客面で苦労されることがあるかと思う。行政と一般企業がタイアップすることで効果的に情報発信できると考える。
- ・市町村で食育推進計画ができていないところが13市町村あるが、どのような現状か。  
→主に保健所が中心になって市町村が計画策定できるよう支援している。計画のひな形を示している。  
またすでに計画のできている市町村の情報提供をするなど、市町村に応じた計画策定の支援を行っている。地域の資源を活用しながら計画策定ができるよう保健所は支援を行っている。

- ・市町村で食育推進計画を策定してもらえるよう、時間があれば食育推進会議の委員が説明に行くことも可能。
- ・学校給食の塩分はどれぐらいか。
  - 学校給食の中の摂取基準に基づいて献立を市町村で作成。小学校3・4年生の食塩相当量の基準値は2.5g、中学生は3.0g。平成26年5月に市町村から栄養量の提出。今年度の平均値は小学校は2.6g、中学校は3.1gとなっており、パンかご飯の献立で多少違ってくるが、基準値を目標にして献立を作成している。
- ・給食のエネルギーはどれぐらいか。
  - 中学校の摂取基準は820kcal 奈良県の平成26年5月の平均値は823kcal となっている。小学校3・4年生の基準値は640kcal で、平成26年5月の平均値は670kcal で基準値の10%前後の摂取状況である。
- ・スーパー食育スクールは文科省から出てきている言葉で、全国でもこの言葉を使っているのか。
  - 文科省の委託事業については、この言葉になっている。
- ・スーパー食育スクールの会議に、食育推進会議から委員として出席していない。この会議で奈良県の食育に取り組む基本が決まってくるので、横のつながりをもつ必要がある。
  - この食育会議の栄養士さんがスーパー食育スクールの会議に出席して頂くとか、反対に栄養教諭がこの食育会議のメンバーの中に入って、この会議のことを持ち帰って活用して頂くことができないか。
- ・健康寿命の定義を教えてください。
  - 奈良県で使っている健康寿命は65歳時の平均自立期間としている。65歳の人の後何年間自立して生活できるかという期間。
  - 奈良県で47都道府県の計算をすべて行い、順位をつけたもので比較している。

#### <報告1> 庁内関係課における食育推進計画進捗状況について（参考資料3）